

令和5年2月3日に黒崎ひびしんホールにて、第16回北九州市立学校事務研究会研究大会を開催しました。北九州市単独の研究会設立後10回目の記念大会になります。今回の JIMTIMES では、研究大会の内容をご報告いたします。

行政説明「北九州市における学校事務共同実施体制について」

教職員課 人事管理担当係長 野田 篤 様

共同学校事務室について

今年度から小倉北区の小中学校で共同学校事務室の試行実施が行われています。小倉北区内で3つの地域グループを設定し、グループ内で会計に係る書類の相互確認や、研修、学校間協力を行っています。共同学校事務室を活用することで、学校事務職員が自信をもって事務処理ができるようになればよいと説明がありました。また、令和5年度の共同学校事務室については、対象校の拡充を予定しているとのことでした。

学校における業務改善の更なる推進に向けて

「学校における業務改善プログラム(第3版)」が策定されることを受け、業務改善の取り組みについて説明がありました。令和7年度末時点での達成目標は、「月平均在校等時間が45時間以内の教職員を100%」「年次有給休暇の取得日数12日以上 of 教職員を100%」ということです。これらの目標を実現するために、学校事務職員も各校の取り組みの一翼を担ってほしいと説明がありました。



講話「これからの事務職員に期待すること」

学校教育部長 高橋 英樹 様

冒頭に高橋様の校長在任時の事例を提示して、学校事務職員も「とにかく学校を楽しんでほしい」というお話がありました。そして、楽しみながら学校経営に主体的に関わってほしいとお話をされました。

次に、これまで行われてきた北九州市の学校教育を振り返った後、これからの学校教育についてお話をされました。新しい学校教育の創造のために、学校教育そのものの価値観をアップデートすべきとのことでした。その中でも学校事務職員は学校改革のキーマンであり、リーダーになってほしいとのことでした。学習指導要領に

ある「主体的、対話的、深い学び」は子どもだけでなく、職員にもあてはまることで、主体的にもっと先生たちと対話してほしい。そして、学校事務職員がリーダーとなって、前向きな姿勢で学校を変えてほしいというメッセージをいただきました。



ミニ講演「学校経営」 民間の経験が生かせるのか？

北九州市立高等学校 副校長 増田 順 様

増田様は今年度公募によって市立高校の校長として採用されました。増田様は医療系のコンサルティング会社で社長を務めていた経歴をお持ちの方です。現在は副校長として、学校の運営や実務の研修を受けています。令和5年4月からは市立高校の校長として業務にあたります。

講演では民間企業で勤務されていた経験をお話されました。まず、課題解決の4ステップ、「課題の認識」「明確化」「解決策」「実行」が大切だということを、バルミューダのデスクライトを共同開発した経験をもとにお話しされました。

次に、「Change the game!」（今までやってきたことが変わる）「Reframing!」（枠を壊したり、組みなおす）という言葉を示し、世の中が変わり、マーケットが変わる中で、前年踏襲ではなく、状況に応じた新しい提案をすることが必要。そのため、これからの子どもたちは、就職してからも学び続けることが必要。具体的には、問題発見力、的確な予測、革新性といったものが求められている。これらの求められる能力を育てていく必要があるとお話されました。

最後に、昭和39年の日本経済新聞の記事を引用され、かなりのスピードで時代が変わっていくなかで、学校事務職員もチームの一員として協力していただきたい。そして、よりクリエイティブな視点を持って仕事をしてほしいというメッセージをいただきました。



研究部企画 北九州市の学校事務の現状を考える ～アンケート調査結果から

研究部は昨年度と同様、「北九州市における児童生徒数300人以下の学校への学校事務補助員未配置」に焦点をあてたアンケートを実施し、その結果を基に、研究部企画を行いました。

学校事務補助員の未配置校は「その他教職員（SSS、栄養教諭、教諭等）」と仕事を分担・連携しているか」と「児童生徒数の違い」によって、負担感や時間外在校時間数に違いに注目し、その項目でクロス集計を行いました。その結果をもとに、学校事務職員が他の教職員と適切な業務の連携・分担していくか検討する必要がある。そして、学校事務補助員を未配置とする基準である「児童生徒数300人以下」という数値の設定について、見直しが必要であると提言していました。

また、トークセッションの中では、学校事務補助員未配置校が増えている現状で、「教育支援」という言葉に感じる違和感や、やめられる業務について話がありました。学校事務職員を取り巻く環境が大きく変化している状況で、とても考えさせられる内容でした。



記念講演 ポストコロナの学校教育 ～AI 時代の学校事務職員の役割～

サイエンス作家／理学博士／YES International School 校長 竹内 薫 氏

北九州市単独の事務研究会設立の10周年記念講演として、竹内薫氏をお招きし、講演をいただきました。AIの特性とその進化によって、将来「なくなる仕事」と「なくなる仕事」を自らの実体験を交えてお話しされました。学校事務職員は「なくなる仕事」として分類されていますが、今後、どのような働き方をすればよいのかというお話もされました。

また、竹内氏は自らが校長として学校経営をされており、新型コロナウイルスが流行した中での学校経営についてなどの話もあり、短い時間ではありましたが、内容の濃い、興味深い内容でした。

参加者の感想

行政説明

共同学校事務室の設置目的や業務について、具体的な内容が聞けた。

同じ課題を抱えている市としては、担当課と一緒に視聴したいと思った。担当課も悩んでいるので、参考資料で提示したいと考えています。

講話

学校事務職員は、ただ事務をこなす事務職員ではなく、学校にいるすべての児童・生徒・教職員と関わり、毎日楽しく仕事をしていくいい仕事だと思っている。実際、私も毎日楽しく仕事をさせていただいています。

学校を楽しんで下さいという言葉が印象に残っています。社会や学校のあり方が想像もつかないスピードで変化していて、そのために事務職員も自ら変化していく事が求められているのだと感じました。

ミニ講演

民間出身の校長先生はどんな経歴の方だろうと思っていましたが、若くして起業された方で驚きました。時代の変化に合わせて企業の業態も変化させていかないと生き残れないという話はとても面白かったです。そういえば私も若い頃よく缶コーヒーを飲んでいたなと思いました。医療コンサルタントという目に見えないものの価値、仕事をしている人を考えての空間創りの意義は高いと感じました。モノ、ヒト、動きから、働きやすさや通いたくなる学校とは何か考えていくこと、子ども達の未来を考えていくことを私も考えていきたいと思いました。

研究部企画

事務長の方々や、全校種を経験した古賀さんの熱い想いが伝わる企画でした。「そういったところに問題意識があるんだな」という、自分とは違う視点があるとわかり、若手であるがゆえにまだ感じるとともに、精進しようと思いました。

記念講演

サイエンス作家の方なので、学校事務職員同士あるいは教育関係者間からでは出てこないようなお話を聞くことができて、たいへん参考になりました。さらに、学校経営をされている方でもあるので、完全に一緒とはいえないまでも、学校事務についての業務や悩みを共有しているので、そういった面でも参考になりました。

全体の感想として、動画視聴形式の研究大会が好評でした。感染症対策としてではなく、新しい研究大会の形として、来年度以降も継続していければと考えています。現地参加、動画視聴された皆様、ありがとうございました。